

自己点検・自己評価カテゴリー、 下位項目	「評価の考え方」と「点検」	資料（データ）
<b>VIII 地域社会／国際交流</b> <b>1 地域社会と交流するための体制</b>	<p>看護師等養成所にとって、地域社会は、ただ単にそこに在るものとしてではなく、意図的に関わり、形成するものとして捉える考え方が必要である。地域社会を静態的概念としてではなく、動態的概念として捉える考え方である。このことは、地域社会の側から養成所を見る場合にも当てはまる。地域社会と養成所は相互の関わりを通して発展していくという考え方が必要である。</p> <p>看護師等養成所は、養成所が設置されている地域社会の住民や団体、保健・医療・福祉施設等のニーズに応える一方、地域社会の人的・物的資源を活用する必要がある。養成所と地域社会との交流が双方にとって意味があるようにするためには、地域社会の関連する委員会に専任の教職員が参加する等の体制を整え、組織的に取り組む必要がある。</p>	<b>78 地域社会と交流する委員会の議事録等</b>
<b>1) 地域社会への貢献と ニーズの把握</b>	<p>養成所の教育・研究活動を通じた地域社会への貢献として、地域住民に対する健康や看護についての啓発・普及活動、看護師等養成所進学希望者への進路相談等が挙げられる。具体的には、公開講座や、教職員、学生によるボランティア活動等が考えられる。また、顕在するニーズへの対応だけではなく、潜在するニーズの掘り起こしも地域社会への貢献として重要である。そのためには、多角的にニーズを把握する方法をもつ必要がある。</p>	<b>79 地域住民や施設と連携し健康や看護について啓発・普及活動になるような公開講座等の活動状況</b> <b>80 ボランティア活動の実施状況</b> <b>81 看護の日の行事としての実施状況</b> <b>82 看護師等養成所進学希望者への進路相談の実施状況</b>
<b>2) 地域社会における資源の活用</b>	<p>養成所が設置されている地域社会は、養成所にとって重要な教育・学習環境である。地域社会の特徴を把握し、それが看護学実習やフィールド研究において活用されるならば、相互の関係はより密接になるだけではなく、地域社会の諸資源を含んだ教育課程を開発することも可能になる。また、これを養成所の独自性とすることができ、地域社会における資源の活用をどのように考えているかを明確にし、積極的に諸資源を活用する必要がある。</p>	<b>83 看護学実習やフィールド研究における施設提携・地域社会との連携状況</b> <b>84 地域社会における資源をどのように活用しているかを示す資料</b>

<点検>

- 1 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っているか
- 2 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっているか
- 3 地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れているか

2 国際交流のための体制

- 1) 学生・教員の国際的視野を広げるためのシステム

看護師等養成所においても、国際的視野を広げるための教育は必要である。例えば、そのための授業科目を設定していることや、外国の文献が所蔵され、インターネットの活用が容易であること等、自己学習に適した環境を整えていることが必要である。

また、卒業後に、海外での学習（勉学）や、技術協力、就労を希望する者に対して、適切な情報を提供できる体制を整えることも必要である。

- 2) 留学生の受け入れ等に関する対応

海外からの帰国学生の受け入れや留学生の受け入れについても、地域のニーズに応じて体制を整える必要がある。さらに、海外留学を希望する学生に対しては、英文での卒業関係書類や単位認定書類を発行する必要がある。

<点検>

- 1 国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか
- 2 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えているか
- 3 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制があるか
- 4 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制があるか

85 教育課程において国際的視野を広げる考え方を記述した文書

86 国際交流を可能とする情報システムの設置及び活用状況

87 留学生の受け入れ等に関する対応状況  
帰国学生や留学生の受け入れ状況  
英文での卒業関係書類

自己点検・自己評価カテゴリー、 下位項目	「評価の考え方」と「点検」	資料（データ）
IX 研究		
1 教員の研究的姿勢の涵養	<p>大学は、学術研究の中心的機関であり、研究活動は実施すべき基本的活動として明確に位置づけられている。看護師等養成所における教員の研究活動は、大学のように位置づけられていない。しかし、看護師等養成所の教員にも、下記の意味において研究活動は不可欠である。</p> <p>看護師等養成所は看護師等の看護基礎教育を担う教育機関である。しかし、看護基礎教育の学問的背景である看護学は、発展過程にある新しい学問領域であり、体系化が進められている段階である。このような背景の中で、社会の期待・ニーズに対応しうる看護師等の養成を目指さなければならない。流動性のある環境の中で教育活動を行うためには、教育活動全般に対して批判的、創造的に取り組み、自らの専門性を探求し、常に新しい情報を取り込み、創意工夫した教授・学習活動を展開することが求められる。</p> <p>そのために、教員は、文献のクリティークを踏まえ、研究成果を活用する能力、および看護の事象、教育の事象について分析的に捉え、問題や課題を見出す能力をもつ必要がある。このような能力は、研究活動を通して培われるものである。特に、看護実践者を養成することに重点が置かれる養成所の教員には、看護実践について、常に研究的関心と、それを追究していく研究的姿勢が重要である。</p>	<p>88 研究活動状況          紀要・研究業績の発行状況          教員の学会入会状況          学会発表状況          誌上発表状況</p>
2 教員の研究活動の保障と評価	<p>教員の研究活動は、養成所に研究活動の支援体制が整っていることによって保障される。まず、教員一人一人が研究に価値をおき、研究活動の意義を認め、教員相互で支援し合う文化を創り上げるとともに、設置者が研究活動を奨励し、時間的（研究時間の確保）、財政的（研究費の支給）、環境的（研究室・情報検索システム等物的環境）支援の具体的内容を提示する必要がある。</p>	<p>89 教員に対する研究活動支援に関する状況          研究活動への時間的保障          研究費の確保・活用状況          研究環境状況</p>
2) 研究活動の評価	<p>研究活動は教育活動へ還元すべきであるという視点から、その計画・成果について評価を受けるシステムを養成所内部にもつ必要がある。</p> <p>看護学及び看護教育の研究そのものが学際的傾向があるため、自</p>	<p>90 研究の協力状況          他校との研究ネットワークの状況</p> <p>91 教員の研究成果を示す資料</p>

施設のみではなく、他の施設及び他の領域の研究者とのネットワークを積極的につくること、あるいは、学会・誌上発表を通して研究成果についての評価を受けること、他の研究者との交流・連携をもつこと、研究協力に関する依頼に対して積極的に関与することが重要である。これらの日常の活動を通して教員自らが研究的姿勢を涵養していくことは、視野の広がりと専門性を高め、教育活動の質の向上につながるものである。

〈点検〉

- 1 教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）しているか
- 2 教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか
- 3 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるか